

スマートフォン版

仮称「紫波探訪ガイド」アプリ構築事業

紫波五郎沼歴史研究会



紫波の歴史文化の
価値や魅力を発信

HP「紫波五郎沼歴史ネット」公開中

「紫波五沼歴史研究会」の紹介

(講演会より)

◆「歴史好きな人が、その歴史的な魅力を語るだけでは、歴史に興味のない人には響かない。」

- ・歴史遺産はどうあるべきか?
- ・歴史好きな愛好家だけのものとして良いのか?
- ・継承活動はしてるのか? 生かすには?



豊かな歴史文化遺産が

数多く残されている紫波町

1 設立の背景・取組

- ・地域の歴史文化を読み解き、掘り起こし。
- ・地域の歴史文化の価値や魅力を発信。
- ・地域の歴史文化を継承する。

2 活動目的

地域の歴史文化の調査・研究を連携・協働によって推進し、その成果を国内外に発信することにより、紫波町の歴史文化を活かした地域づくりの推進に寄与する。

3 発足 平成29年11月1日

4 会員数 15名 スタートアップ活動状況

事業の背景（現状・課題・視点）

豊かな歴史文化遺産が数多く残されている紫波町

1 存在が当たり前になっている歴史文化の魅力に気づくことが少なく、地域振興や観光振興等に活かす取組は十分とは言えない現状。

➡ **歴史文化への興味や関心を高める新たな視点での取組が必要。**

2 人口減少や少子高齢化などを背景に、伝統的な祭礼、年中行事、食文化の技術や知恵が衰退・消失する傾向にある。

➡ 若年層を含むあらゆる世代が歴史文化の価値や魅力を理解し、

地域への誇りや愛着を育み、**保存・継承を担う人材を育成**する取組が必要

3 ILC（国際リニアコライダー）誘致運動の進展、国際定期便の開設等により、外国人移住による多文化共生やインバウンド（訪日外国人旅行）への対応が地域課題。

➡ 受入対応を地域・市民団体レベルでも展開し、

歴史文化を**地域振興・観光振興等に活かす取組**が必要である。

（講演会参加より）

◆「全国的な発信が少ない」
◆「歴史好きな人が、その歴史的な魅力を語るだけでは、歴史に興味のない人には響かない。」

◎歴史遺産はどうあるべきか？

◎歴史好きな**愛好家**だけのものでよいのか？

◎継承活動はしてるのか？

歴史文化の価値・魅力の発信

HP「紫波五郎沼歴史ネット」公開中

発信活動 第1弾



QRコード

HP「紫波五郎沼歴史ネット」による 紫波町の歴史文化の価値・魅力の発信

- ・ **比爪館跡を中心にした五郎沼周辺の歴史文化をモデル地区に先行的に団体HPで公開**
- ・ **新たな学術的な知見を踏まえながら、一人でも多くの町民が歴史文化に興味をもてるように、民俗芸能の公演動画や現地写真を組み合わせ、紫波町の歴史文化の情報を発信**
- ・ **HPの閲覧者数は、約11,000人を超え(31年2月末)、紫波町の歴史文化への関心・興味を喚起させ、その価値や魅力の周知・広報に寄与**



仮称「紫波探訪ガイド」構築事業

探訪者への
受入体制の整備
(ツール)

発信活動 第2弾

ガイドアプリ構築 (スマートフォン用)



(探訪案内)



(希望ルート)



仮称「紫波探訪ガイド」構築事業

事業の必要性

◎ 歴史文化遺産への理解を深め、地域活性化への多様な市民参加を促す仕組みが必要である

◎ 歴史文化の保存・継承を担う人材を育成する

児童・生徒や親世代も含めたあらゆる世代がその価値や魅力を理解し、自らが住む地域への誇りや愛着を育み、保存・継承に関わる市民参加を促すための普及啓発をこれまでとは違った視点や手法で展開する必要がある

◎ 探訪者への受入体制整備

- ・ ILC誘致運動の進展
- ・ 台湾・上海からの国際定期便の開設等により、外国人移住による多文化共生やインバウンドの拡大を見据え展開していく必要がある

発信活動 第2弾

ガイドアプリ構築（スマートフォン用）



(イメージ図)



(探訪案内)



(希望ルート)



仮称「紫波探訪ガイド」構築事業

アプリの概要

仮称「紫波探訪ガイド」の使い方（スマホ用） 3/4/2019

紫波五郎沼歴史研究会

1..スマホの使い方



- ・ 「まち歩き」専用アプリ
- ・ 複数の観光モデルコースを設定
- ・ 史跡・遺跡等を中心にテーマやストーリーを組み立て、文化財を紹介
- ・ 周辺の飲食・物販施設等の情報も取り込む。

基本的な使い方

- ① 複数の観光モデルコースから希望ルートを選ぶ。
- ② 地図で現在地、ルート、目的地を確認し、散策を開始する。
- ③ テキスト・静止画・動画等により歴史文化遺産を紹介・解説する。
(音声ガイド付)

① 「探訪モデルコース」から「希望コース」を選択

1. 史跡名所コース(例：樋爪館跡・高水寺城跡・経塚・一里塚など)



2. 建造物コース(例：神社仏閣・近代遺産などを想定)



3. 伝統文化コース(酒造・祭礼・芸能文化などを想定)



4. . . .

5. . . .

(町内看板及び広報より)

スマートフォンの案内・流れ

②希望コースの選択



1. 史跡名所コース

2. 建造物コース

3. 伝統文化コース

4. ...

5. ...

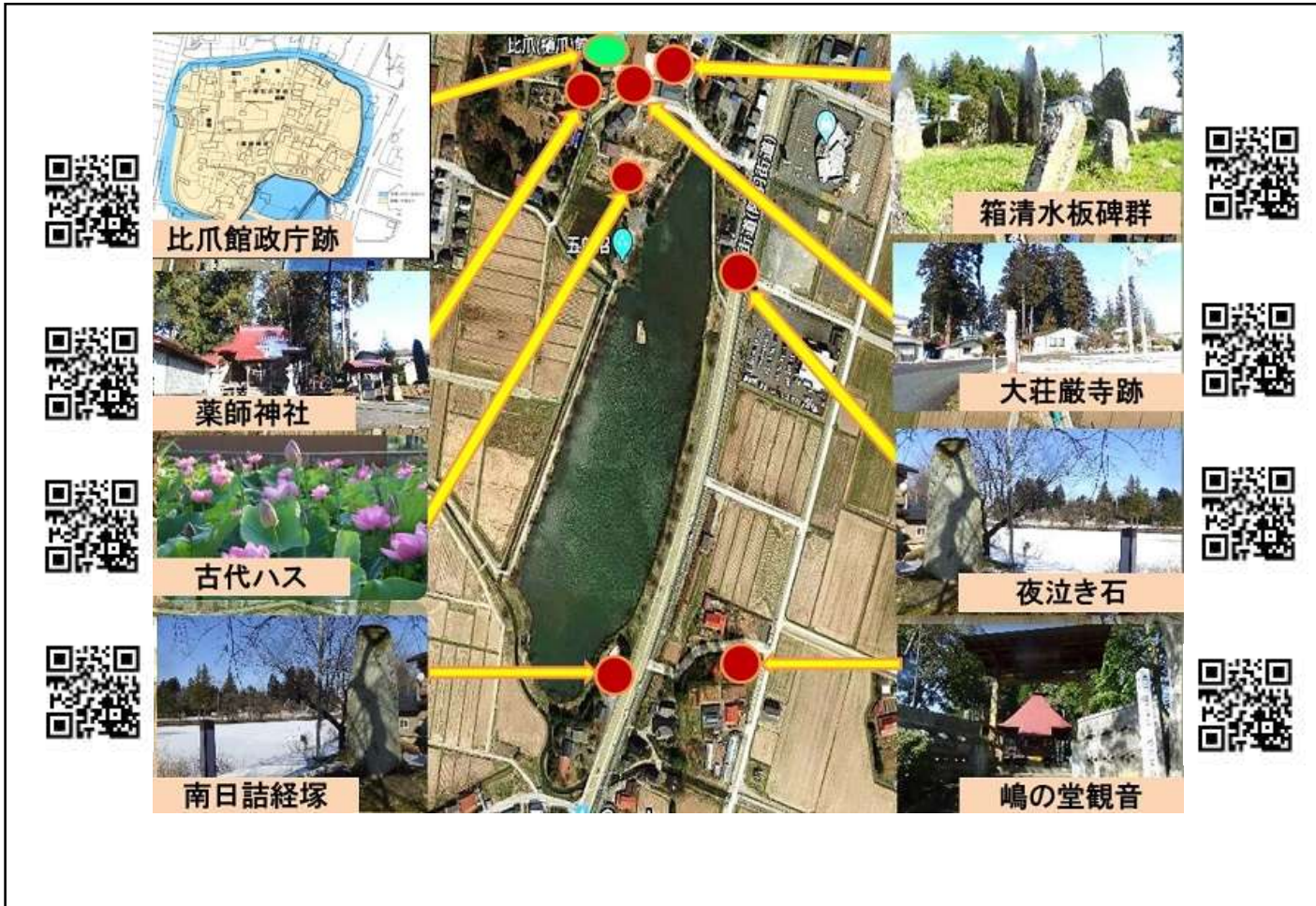


- ・ 初年度は樋爪館跡をモデルコース
- ・ 次年度以降、コースを順次拡大する。
- ・ 食べる・買う・泊るの要素も盛り込む。

② 探訪モデルコースの案内

各種「探訪案内マップ」の例

先行モデル地区：史跡名所モデルコース(史跡・樋爪館跡)



スマートフォンの案内・流れ

① 「探訪モデルコース」から探す

- ・マップ (チラシ)
- ・QRコード (マップ)
- ・URL (検索) 等

◎ 「探訪案内マップ」の作成

マップ・チラシの配置は
各関係機関及び施設に依頼予定

仮称「紫波探訪アプリ」の今後の展開

1 コンテンツ(中身・内容)の充実と対象地区の拡大

- ・各地域や関係団体との連携協働により地域情報の収集、コンテンツの充実による利用者目線での利便性の向上を図り、観光振興や地域活性化につなげる手法の検討
- ・モデルコースを地域協働で多様な視点で開発し、段階的に全町域を対象

【参考】観光モデルコース設定の視点

- ◆地区別のコース設定（中央部・東部・西部）
- ◆歴史文化遺産の種類によるコース設定（史跡・建造物等）
- ◆特定テーマ・ストーリーによるコース設定（キーワード）

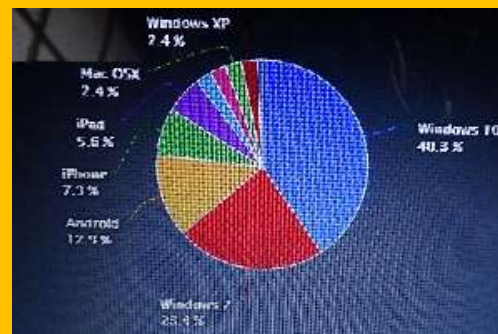
東北開拓と古代城柵、宗教伝播と寺社造営・経塚・板碑群、砂金採取と切支丹文化、樋爪氏と平泉文化、奥州合戦と御家人、高水寺城と斯波氏、中世城館と在地領主、南部氏と郡山城下、八戸藩と遠野南部氏、散居・居久根に見る農村景観、外来商人と酒造文化、奥州道中と脇街道

2 アプリ機能の充実と運用・保守管理

- ・将来的にiOS (iPhone/iPad) 端末に対応したアプリの構築

【参考】HP訪問者のOS(機種)環境

iOS (iPhone/iPad) 12.3% (緑+紫)少ない
Android他 87.7%



- ・AndroidOSのバージョンアップや利用者からの問い合わせ対応など、適切な運用・保守管理

関係機関・団体との協働推進



さくら満開の五郎沼（昨年4月20日）